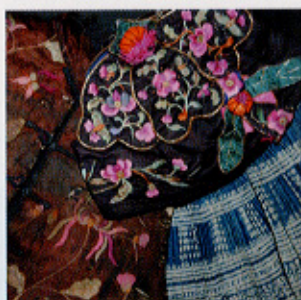


市 宮 一  
博 物 館  
だ よ り

No.39 2006.10



○左上/右上写真:野外民族博物館リトルワールド所蔵  
○左下/右下写真:三星毛糸株式会社所蔵

平成18年度

## 企画展

# 衣装から見た

# 世界の文化

2006・10・7～11・5

## はじめに

民族衣装は、気候や文化、さらには歴史や宗教によつて大きく影響を受け、現在に至つていると言えます。しかし、各国の交流が進み、衣装の形や素材は変容し、本来その国の文化や歴史を背負っていたはずの民族衣装の特色が薄れてきました。

自然環境、言葉や文化、宗教。私たちは、知らず識らずのうちに長い歴史や国の背景を背負つて毎日を生きています。そして、私たち日本人は今、そのことに無意識ではいられない状況にあります。

本展覧会は、衣装を切り口として、世界の国々の文化や歴史に興味を抱き、理解する機会になればと考えています。

## 衣装の見方・捉え方

世界の民族衣装を總体的に捉えることは、とても難しいと言えます。

自然環境はもとより長い歴史の中で、宗教や社会・文化に影響されて、ずいぶん長い歴史の背景を民族衣装は背負つてしまいました。

私たちはたった一枚の衣装から、その裏側にある人生や歴史を読み解いていかなければなりません。

特に注目できるのは、衣装全体に施された刺繍やビーズ。美しいと思うだけではなく、二つが母から子へ受け継がれ、技術として伝承されていったものです。

そして今、時代の流れの中で、これらの技術や文化は途絶えようとしています。

## 気候(自然環境)と衣装

民族衣装は、自然環境に大きく影響されながら発達してきました。寒さ、暑さ、湿気、乾燥…、北極圏から熱帯雨林地帯に至るまで、さまざまな気候に人々が適応しながら衣装を発展させたのです。同じ動物の皮を利用して、北極圏の人々とアフリカ南部の人々の利用の仕方は大きく違っています。

また、一口に暑いと言っても、湿気のある暑さか、乾燥した暑さかで衣装は全く異なります。砂漠で肌をさらして歩くことは、命にかかわることなのです。

ここでは、「極寒に耐える衣装」「白夜と衣装」「寒風と衣装」「四季のある暮らしと衣装」「砂漠と衣装」「暑さを凌ぐ衣装」「雨と衣装」という7つのテーマに分けて、気候と衣装の関係を探ります。



▲女性用外套  
(ネネツ族/ロシア)  
所蔵:リトルワールド



男性用衣装と石斧▶  
(ダニ族/パプアニューギニア)  
所蔵:三星毛糸

## 素材と衣装

民族衣装は、自然環境に即した素材を選んで作られています。樹皮や草の鞣皮、絹、木綿、獣毛。今でこそ化学繊維が普及し、衣装を簡単に洗濯機で洗うことができるようになりました。

樹皮布は、織の技術が知らなくても衣類を作ることができる古い素材でした。アフリカ、東南アジア、ポリネシアなどで、その技術は長く残ったと言えます。

ここでは「樹皮と草皮」「絹」「綿」「獣毛」の4つにテーマを分けて紹介します。



▲樹皮布製作用具(サモア)  
男性用樹皮布製帯(バブアニューギニア)  
所蔵:野外民族博物館リトルワールド

## 衣装の形と着方

民族衣装はその形からいくつかに分類することができます。服飾形式の分類はこれまで、多くの研究者によってなされてきました。

裸身装飾も衣装の一つと言えますが、ここでは身に纏うものがある衣装を「巻く衣装」「輪になった衣装」「貫く衣装」「はく衣装」の4つに分類して紹介したいと思います。



▲女性用衣装(ブルーメオ族/タイ) 所蔵:三星毛糸株式会社  
プリーツの紺糊染めをした巻きスカートが特徴的です。



▲筒型衣装(男女同形)(フロレス島/インドネシア)  
所蔵:三星毛糸株式会社

## 宗教と衣装(覆面の女性たち)

イスラム教の女性たちは、その教義から、家族以外の男性には顔や姿を見せません。覆面をし、全身を衣装で包んでいます。しかし、国や民族により覆面の仕方や程度に差があり、シヨールをかけるだけになっている地域もあります。すべてを包み込んで両眼が光る様子は、かえって美しさを醸し出しているようです。



▲女性用衣装(ヴェドウィン族/エジプト)  
所蔵:三星毛糸株式会社



▲買い物をするモロッコの女性。  
写真提供:野外民族博物館リトルワールド

## 衣装の美

どの民族衣装にも共通しているのは、手仕事の美しさです。こつこつと時間をかけて一針一針縫う姿が目に見えるほど美しい刺繍やビーズ、複雑な模様が織り込まれた布や帯地。母から娘に受け継がれる技術は、とても尊いものであったはず。



▲女性用衣装(ベンガル州/インド)  
所蔵:三星毛糸株式会社

◇この展覧会は、三星毛糸株式会社の岩田和夫氏が長年にわたって収集した資料や、野外民族博物館リトルワールド、松岡未紗氏によって収集された衣装など、貴重な資料によって構成することができました。今となつては、日本においても、世界においても本来の民族衣装を収集することは難しくなっています。現在保存されている資料を大切に継承していくとともに、博物館はさまざまな文化の違いを、形あるものを通じてこれからも伝えていきたいと思えます。

また、展覧会に付随して、3回の講演会をはじめ、「民族音楽コンサート」「民族衣装ファッションショー」「世界のティーパーティー」など、毎週日曜日に催事を開催します。

「見る」だけでなく、聞いたり味わったりすることで、世界についてさらに理解を深めることができましたらと思います。(久保祐子)



2006.9.24  
やきものを体験する

# Ichinomiya City Museum Museum Kids Club 2006



2006.10.1  
綿でアートする

博物館は、どこにもない、新しい活動を追い求めて、  
いつも進化し続けていたいと考えています。

## 新しい活動へ

平成3年度から開始した展覧会「くらしの道具〜今と昔〜」は、今年度で15年目を迎えます。さらに、平成16年度から始めた小学校へのアウトリーチ活動も順調に継続しています。その中で、定期的に博物館を利用する子どもや保護者が徐々に増え、また、「こみみ通信」の定着など、「博物館」の存在も広く普及してきたと考えられます。講座におけるアンケート結果を見ても、より深い学習を求める声もあり、広く浅く普及する方法から活動方法の転換をする時期にきているのではないかと考えました。

## I M K C 発足

一宮市の子どもたちは、必ず博物館に一度は訪れます。しかし、「もっと深く学びたい」子どもたちに提供できるプログラムは、数少なかったと言えます。

そして、博物館周辺にある諸科学を学ぶ場として発足したのがI M K C：いちのみやミュージアムキッズクラブです。

対象は小学校4年生から6年生。中学生になると卒業しますが、今度はI M K Cをサポートする立場になってくれることを期待しています。

I M K Cの活動は歴史系諸科学に限らず、美術や自然に及び、偏らない学習を目標としています。

平成18年度の第1期生は17人。市域42校のうち11校から参加しています。4年生が7人、5年生が6人、6年生が4人。3年後を期待して、毎回プログラムを実施しています。

## 4月からの活動

ここで、どのような講座を実施し、今後どう展開していくかを紹介しましょう。年間12回以上の講座を目指し、月1回の定期講座の他に急に沸き起こる講座を特別講座と位置づけています。

回数や内容にこだわらない柔軟な活動、これがI M K Cの目指すところです。

日程	曜日	内容	場所	分類
6月4日	日	ガイダンス	博物館・市内	講座
6月14日	水	小麦の刈り取り	市内	特別講座
6月21日	水	ホテルの観察会	大野極楽寺公園	特別講座
7月23日	日	自然史博物館で分類を学ぶ	豊橋市自然史博物館	講座
8月27日	日	考古学入門	博物館	講座
9月24日	日	やきものを体験する…講義・作陶編	愛知県陶磁資料館	特別講座
10月1日	日	綿でアートする	博物館	講座
10月28日	土	やきものを体験する…窯焚き編	愛知県陶磁資料館	特別講座
11月3日	金(祝)	自然観察会 木を見る・森を見る	博物館・妙興寺	講座
12月24日	日	ムギの掃除とネジリカゴ作り	博物館・市内	講座
12月	日	木曾川の白鳥を見に行こう!	木曾川	講座
1月	日	くらし展の説明をしよう!	博物館	講座
2月25日	日	愛知県民俗芸能大会の舞台裏	一宮市民会館	講座
3月25日	日	IMKCの冊子をつくる	博物館	講座



2006.8.27  
今年はず、分類学を豊橋市自然史博物館で学び、一宮市博物館で考古学入門してみました。来年は、民衆学入門と民俗調査を予定しています。



2006.6.14  
小麦の刈り取り。将来、ネジリカゴを制作します。刈り取りの仕方、束ね方、昔の暮らし…、いろいろなことを学びます。

## 博物館の普及活動

博物館は本来、資料を収集・収蔵し、調査研究を重ねて後世にその資料と情報を伝承するのが主要な仕事のはずです。しかし、それを目に見えないところで積み上げても、伝えることを怠れば何の意味もありません。

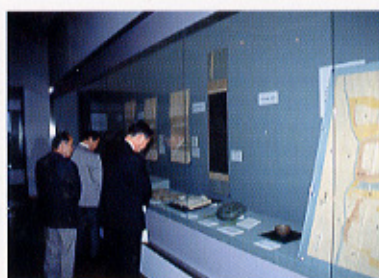
このことを、まずは17人に伝えていきたいと考えています。(久保 慎子)

# 平成十八年度 企畫期 博物館事業報告

平成18年6月10日～7月9日  
特別展 いちのみや戦国武将列伝

山内一豊をはじめとした

一宮地域の戦国武将の群像



特別展会場  
佐藩山内家  
伝来の品々  
を展示しま  
した。

また、N  
HKと共催  
で「大河ド  
ラマ」功名  
が辻」番組  
紹介展」を

昨年4月1日に一宮市は旧尾西市・旧木曾川町と合併しました。一宮市木曾川町黒田は、古くから交通の要所であり、かつては黒田城も存在しました。黒田は、山内一豊の出生地といわれており、この特別展は、一豊をはじめとした一宮地域の戦国武将について展示しました。黒田城の歴史代城主について、近在の神社資料を中心に展示し、戦国武将については、市内島村ゆかりの兼松正吉、市内浅野ゆかりの浅野長政、市内奥町ゆかりの奥村永福、市内奥町ゆかりの梶川高秀・高盛、市内北方ゆかりの長谷川秀一、市内光明寺ゆかりの青井意足等々を紹介いたしました。また、

(財)山内家宝物資料館のご協力により土

同時開催しました。大河ドラマ収録で使用した衣装や小道具、番組紹介パネルなどが展示してあり、艶やかな打掛や煌びやかな小物の数々や大河ドラマの台本などを観覧して、皆さんの表情もほころんでいました。6月18日には妙興寺公民館において、記念講演会を開催し、(財)土佐山内家宝物資料館館長 渡部淳氏に講演をしていただきました。講演会場には、多くの方にご来場いただき、準備した椅子に座りきれないほどの盛況ぶりです、皆様の関心の高さがうかがえました。講演では「山内一豊とその妻」という内容でお話いただきました。一豊やその妻の出自をはじめめとした大変興味深い話や、さらには種々な裏話までをもしていただき、会場は、大いに盛り上がりました。

(齋藤 晶)



「大河ドラマ「功名が辻」番組紹介展」会場



記念講演会

## 仁王胴具足 伝山内盛豊所用

一宮市木曾川資料館蔵 一宮市博物館保管



黒田大畑町内会の伝来品で、長らく郷蔵に保管されていましたが、昭和54年に旧木曾川町の資料館へ寄贈されました。地元では、山内一豊の父で盛豊の所用品と伝えられてきましたが、製作年代は、それよりもやや下り、一六世紀後半の天正から慶長の頃と考えられます。

この具足は、偶像の仁王をかたどっていることから、「仁王胴具足」と呼ばれるものです。類似例としては、東京国立博物館、スペイン王立武器庫等にしか見られない希少なものです。

鉢、胴、籠手、脛当は人肌似せた肉色に塗られ、面頬のみは朱漆塗り。鉢には、熊毛が全体に植えられていたと考えられますが、側頭部に残るのみで、前頭部から後頭部にかけては下地から大きく剥落し、当初の髪型をうかがい知ることはできません。また、眉庇には鍔が刻まれ、眉は漆の盛り上げで作られています。

胴は二枚胴。厚い鉄板に、前面には乳と肋骨、後面には背骨と肋骨が打ち出されて

います。背骨、胸筋の周辺部には熊毛が植えられています。また、胴と兜の双方には鉄砲によりできたと考えられるへこみがあります。

細部には、様々な細工が施されています。背に指物を差す場合の枠である合当理には金蒔絵が施され、その下部の待受には金蒔絵で五七の桐紋が描かれ、針描(蒔絵の技法の一つ)で葉脈が描かれています。胴を吊る両胸の袴の金具には魚々子打ち(彫金技法の一つ)の地に金鍍金の菊桐紋が表されています。草摺の裏には縶子を使用されますが、後世の威し直しが多く、取付け位置も変更されています。

この具足は、胴の前面は肉色が退色して下地の黒漆層が目立ったり、兜の頭髪部分の剥落等、破損が著しいのですが、後世の修理や部品の交換がほとんどない状態で伝来してきたという点でも大変貴重なものです。

細部に豊臣秀吉ゆかりの菊桐紋の金工装飾や、五七の桐紋の蒔絵がある点から豊臣家の影響を受けた上級武将の所有であったと考えられます。

(齋藤 晶)



胴



袴



合当理

平成18年4月29日～5月28日  
**企画展 「陶工・鈴木八郎展」**

この展覧会は、瀬戸市出身の鈴木八郎（二九一五―二〇〇五）が制作した陶芸作品七〇点とともに、身近な自然等を描いた素描画など三〇点を紹介したのですが、その他に、毎日のように描きためてきた写生帳や写生に出掛ける時にいつも携帯した矢立と色鉛筆。八郎が生涯師と仰いでいた藤井達吉からの書簡、そして達吉が終戦直後西加茂郡小原村につくった芸術家村に加わっていた頃に制作した一閑張りの四方盆など、様々な資料から八郎の作風の変遷や人となりを窺い知ることができました。



陶芸作品は、石炭窯・ガス窯から穴窯へと焼成方法が変わるに伴いその作風も変わってゆくのですが、一堂に展覧してみると、



その創作精神の根底には達吉の影響を色濃く感じさせるものがありました。期せずして、八郎が病院のベッドの上で、亡くなる二時間前に描いた絶筆「朝陽富士図」の構図が、達吉が絵付けをして八郎が焼いた小皿の富士図とそっくりであったことも、それを裏付けるものでしょう。また、展覧会初日と最終日には八郎の茶道具を使った呈茶会が行われ、たいへん盛況でした。



平成18年8月12日～23日  
**企画展 「一宮市子ども写生大会作品展」**

一宮市内の幼稚園・保育園児、小・中学生の絵画作品四〇一点を展示しました。この作品展は、毎年、感性あふれる、すばらしい作品を数多く生み出してきた「一宮市子ども写生大会」（二宮市学童写生大会より改称）での上位入賞作品、学校代表作品を展示したものです。さらに本年度からは、新生一宮市域全小・中学校代表の子ども達の参加を得て、より一層充実した内容となり、訪れる人々の目



を楽しませてくれました。なお、今年度から三岸節子記念美術館でも8月25日から9月3日まで同内容で開催しました。

平成18年9月2日～18日  
**企画展 「2006 一宮美術作家新展」**

一宮美術作家協会四九人による、最新の発想でイメージの試作を展開した力作六七点を



展示しました。絵画・平面、彫塑・立体、デザイン、工芸と多彩な作家の、個性豊かなそれぞれの作風を築きあげてきました。

平成18年9月22日～10月1日  
**企画展 「一宮写真協会25人写真展」**

一宮写真協会より選抜された二五人による写真展。「見た。感じた。撮った。」をテーマに、感性に裏打ちされた表現力で熱い思いを込めた作品を展示しました。モノクロ、カラーともに印象深く力作ぞろいでした。



平成十八年度 企画事業  
文化財保護事業

修理予定の文化財  
大応国師塔銘牌 (原文、妙興寺所蔵)

大応国師とは、臨済宗の高僧南浦紹明のことであり、妙興寺の勸請開山である。国師は、鎌倉建長寺の住持で、延慶元年（一三〇八）に亡くなっている。牌には国師の伝が陰刻されており、建長寺天源庵の牌を写したものと考えられている。また、裏面の陰刻により、享徳二年（一四五三）、妙興寺二七世住持無陰徳吾が造立し、四世あとの真亮が刻んだものであることが分かる。

牌は、縦一材製。黒漆塗りで、文字を陰刻する。文様は線刻を行い、谷間には白色顔料を塗る。牌の正面には緑取りがあり、外周部は唐戸面に加工されており、緑の「團帯部」には唐草文が線刻される。牌の上部には左右一对の龍を線刻する。

牌の架台は横一材に差込み穴をもって本



体をはめ込む。

二本の棧木を渡し「キ」の字型で牌を安定させる。架台の三材にはいずれも両端を唐草様に刻し、外縁は唐戸面とし、唐草の輪郭と共に朱漆塗りとする。

現状は、牌の中央に干割れが

走り、それに沿って黒漆層が帯状に剥離する。また同じく龍文及び團帯部の唐草文の線描きに沿っても黒漆層が剥離する。また、架台を中心に著しい虫蝕があり、また牌の外縁・下方にも虫蝕がみられる。牌の架台への差込が緩く不安定な状態であり、架台の棧木の一部は後補であり、取り付けも不安定である。このように全体に損傷がひどく非常に痛々しい。修理では、干割れ部は、松の薄材を差し入れて安定を図る。また黒漆層については、剥落止めを行う。虫蝕箇所を漆木屑及び松材で補修し、虫蝕穴については樹脂等を注入し安定を図る。牌の安定については、差込部に松の薄材を貼り付け、棧木は一度解体をし、組付けを修正する。

参考・引用「修理設計書」

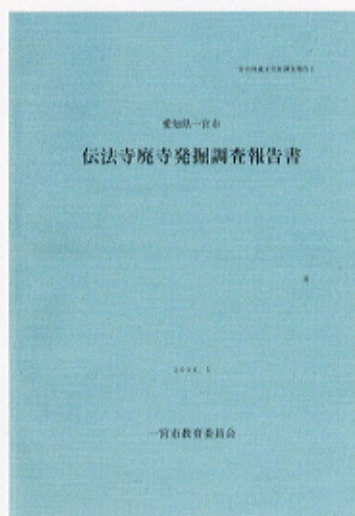


「伝法寺廃寺発掘調査報告書  
埋蔵文化財調査報告V」

一宮市刊行

平成8年と9年に実施した丹陽町伝法寺地内の遺跡発掘調査のうち、伝法寺廃寺の報告書を刊行しました。A4判、100ページの冊子で、あわせて平成元年に実施した範囲確認調査で出土した遺物や、周辺で採集された遺物も掲載しています。博物館で1部800円で頒布していますので、ご希望の方は博物館受付でお願い求めください。

伝法寺廃寺は、白鳳時代（七世紀後半代）に創建されたと考えられる寺院です。軒丸瓦は、写真のⅠ・Ⅱ類のほかにⅢ種、軒平瓦は、写真のⅡ類のほかにⅣ種が出土しています。そのほかに、いずれも小片ですが、瓦塔や、鬼瓦の破片も検出しています。今回の調査では明確に寺院と確認できる遺構は検出できませんでしたが、軒丸瓦Ⅱ類と黒笹90号窯期の灰釉陶器の共伴して出土し、伝法寺廃寺の廃絶の下限が一〇世紀前葉にあることが確認できました。



伝法寺廃寺軒平瓦Ⅱ類



伝法寺廃寺軒丸瓦Ⅱ類



伝法寺廃寺軒丸瓦Ⅰ類

## 平成18年度下半期催し物のご案内

10月7日(土)～11月5日(日)	企画展「衣装から見た世界の文化」
11月2日(木)	市民文化財めぐり
11月11日(土)～11月26日(日)	「岩田哲夫水墨抽象の世界展－東西絵画の融和をめざし－」
12月2日(土)～12月17日(日)	企画展「2006一宮市現代作家美術秀選展」
1月6日(土)～2月25日(日)	企画展「くらしの道具～今と昔～」
2月4日,11日,18日の各日曜日	博物館講座「尾張平野を語る11～尾張の芸能と文化～」
3月4日(日)～3月18日(日)	作品展「手つむぎ・染め・織り展」
3月3日(土),4日(日),18日(日)	博物館講座「土器をつくろう」
3月21日(祝・水)	民俗芸能公演 鳥文楽・宮後住吉踊

## 第6回川合玉堂展 玉堂—その「うた」



田扇  
「かなかなや  
あふるる  
たまゆらに」  
麦酒

日本画家・川合玉堂は、明治6年に一宮市木曾川町の現在玉堂記念木曾川図書館が建つ場所で生まれました。その図書館の展示室を会場に毎年行う川合玉堂展。今回は、作品として描かれた画賛を中心に紹介します。

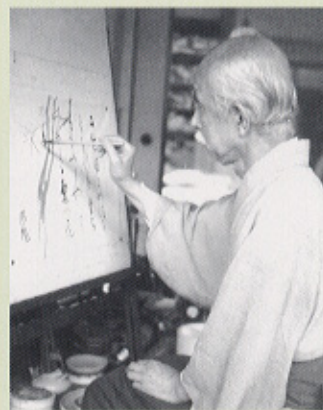
川合玉堂は折にふれ、「うた」を詠み、そこに絵を描き添えました。「うた」と絵が調和したこれらの作品からは、玉堂が込めた気持ちが、より鮮明に伝わってきます。絵画作品とはまた違った風合を持つ作品をお楽しみください。また本展では、絵画作品も併せて5点展示します。

### 玉堂記念木曾川図書館

TEL. 0586-84-2346

一宮市木曾川町外割田字西郷中25  
(名鉄名古屋本線「新木曾川」駅下車  
西へ約1km、徒歩約15分)

- ◆日 時／10月21日(土)～11月12日(日)  
午前10時～午後6時
- ◆会 場／玉堂記念木曾川図書館3階
- ◆入場料／無料
- ◆休館日／毎週月曜日



画賛制作中の川合玉堂

一宮市  
博物館  
だより

第39号

発行日 平成18年10月13日  
編集・発行 一宮市博物館  
制作 光村印刷株式会社

### 利用のご案内

名鉄名古屋本線「妙興寺」駅下車南口より徒歩7分  
〒491-0922 愛知県一宮市大和町妙興寺 2390  
TEL. 0586-46-3215 FAX. 0586-46-3216

【観覧料】(常設展・展覧料含む、特別展の場合は別途定める。)  
一般=200円(160円) 高・大生=100円(80円)  
小中生=50円(40円) ※( )内は20名以上の団体料金。

【休館日】毎週月曜日、休日の翌日、年末年始(12月28日～1月4日)

【開館時間】午前9時30分～午後5時(入館は4時30分まで)

- ※一宮市内の小中学生及び身体障害者等の手帳を持参の方。  
(付添人1人を含む)は無料。(ただし特別展開催期間中は除く)
- ※一宮市発行の「シルバー優待証明カード」持参の方は無料。

【HP】<http://www.icm-jp.com>

